

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	臨床判断能力向上におけるシミュレーション教育プログラムに関する検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	松裏 豊
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	松裏 豊

講演題目	臨床判断・問題解決能力向上における臨床シミュレーション EBN 実習に関する検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【背景・目的】 近年、医療の高度化により、臨床現場では看護師は単に医師の指示に従い業務をこなすだけではなく、自らが医療チームのリーダーとなり、患者の評価を行い、より質の高い患者中心のケアを行うための臨床判断・問題解決能力の向上が求められている。厚生労働省による看護師教育の基本的考え方においても、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養うことの必要性が唱えられている。臨床判断能力や問題解決能力を向上するためには、自らが行ったアセスメントやケアを振り返ることで知識や技術を深めていくことが重要である。本学部での看護学教育では最終学年次に看護実践およびその評価を通し課題達成と問題解決能力を養うことを目的とした看護学実習を実施している。そこで本研究では現在行われている実習を履修した学生の学習目標到達度について評価することを目的とした。</p> <p>【方法】 2021 年度に臨床シミュレーション EBN 実習を履修した学生 119 名を対象とした。データ収集は実習時に用いられている実習評価表からアセスメントやケアの提供に関する項目を抽出し記述統計量を算出した。さらに同病棟で実習を実施した学生 24 名を対象とし、評価表に記載された実習を通しての振り返りに関する自由記載に対し形態素解析と頻度分析を行った。分析ソフトは MATLAB 9.5 (MathWorks, Massachusetts, USA) を用いた。倫理的配慮については書面と口頭で説明を行い自由意思の下で書面にて同意を得た。</p> <p>【結果および今後の展望】 評価項目にある「アセスメントおよび患者の全体像の把握」に関する項目では 91.6%が「少しの援助があればできる」または「自力でできる」と評価された。「看護計画の立案」および「根拠に基づいた看護実践」についてはそれぞれ 86.7%、91.6%であった。また頻度分析の結果、抽出された単語は「患者」が最も多く 96 回、次いで「情報」42 回、「ケア」28 回、「情報共有」18 回、「根拠」が 17 回抽出された。これらのことから本実習内では情報収集や情報共有を行い根拠に基づいたケアの実践をより意識した実習が行われていたことが明らかとなり学習目標の達成につながったと考えられる。臨床判断および問題解決能力の向上には自らが行った判断と行動を結びつけることにより思考プロセスを構築していくことが重要であり、今後はより効果的なディブリーフィングを取り入れ、さらなる学習目標の達成度の向上を目指していくことが必要である。</p>